

2 1) 庚申堂 ※飛び地

御本尊：青面金剛童子像
庚申堂（こうしんどう）は、四天王寺の南大門から南に 300m ほどの場所があり、日本で最初に庚申尊が出現した地と伝えられ、京都の八坂庚申堂、東京の入谷庚申堂（現存せず）と並び、日本三庚申の 1 つに数えられています。



庚申堂

701 年（大宝元年）に豪範（ごうはん）僧都が創建し、豊臣秀頼によって再建された後、大阪大空襲で焼失し、現在のお堂は大阪万博で全日本仏教会が休憩所として建築した「法輪閣」が寄進・移築されたものです。

堂内には秘仏・青面金剛童子像と四天王像が祀られており、除災無病のご利益があるとされています。

創建以来、庚申の日やその前日（宵庚申）に参拝すれば、必ず願いが聞き届けられると言われ、現在も縁日にはたいへん賑わいます。

庚申堂は四天王寺の南大門の南に 300m の所にあります。

※「庚申の日」十干・十二支のひとつ。年に 6 回、または 7 回になる。平安時代に中国から伝わり、江戸時代に流行した民間信仰で庚申信仰のこと。中国の道教を元にする信仰と云われている。十干と、十二支の組み合わせで、60 日ご



とにやってくる庚申（かのえさる）の日に、庚申さまをまつる行事。不老長寿を目指す道教の庚申待が起源。